

# ケアマネ組織“再開”

別府市 11年に休止、「やっぱり必要」声上がる

介護支援専門員（ケアマネジャー）の資質向上や連携強化を目指す「別府市介護支援専門員協会」が設立された。2000年に設立された協議会は活動を休止しており、研修や意見交換などの場を求める声が上がっていた。



設立された別府市介護支援専門員協会の役員や会員ら。別府市社会福祉会館

## 質の高い研修や意見交換の場へ

介護支援専門員は介護や支援が必要な高齢者らの相談に応じ、介護保険制度に基づいたケアマネジメントを行う。別府市では同制度がスタートした00年に協議会が設立されたが、会員数の減少などで11年に活動を休止。その影響で専門的な研修の機会や、介護支援専門員同士の意見交換の場がないという課題があった。県内では別府など3市を除く13地域が協会・協議会を組織している。

昨年7月、安部第一医院（上野口町）の安部明夫院長が代表発起人となり、医師、看護師、薬剤師、介護支援専門員ら計12人で発起人会を発足。「介護支援専門員の資質と社会的地位を向上させて、地域住民の健康と福祉の増進につなげよう」と新組織の設立に向け、準備を進めてきた。

2月10日に市社会福祉会館で設立総会があり、規約や事業計画案などを承認。安部院長を理事長に選任した。会員数は約90人で、関係者に参加を呼び掛けている。

安部理事長は「ケアマネジャーは日々の業務で忙しく、連携不足で孤立することもある。県協会や日本協会を通して質の高い研修をし、業務のサポート体制を整えた」と話している。

（坂本陽子）